



-「認定NPO法人 黄河の森緑化ネットワーク」への参加-

株式会社阪急阪神ホテルズ（本社：大阪市北区 代表取締役社長：山澤俱和）は、日本人と華僑が協力しながら緑化・環境保全を目標に活動する団体「認定NPO法人 黄河の森緑化ネットワーク」へ参加し、中国黄土高原への緑化支援活動と日中交流促進に取り組みました。中国内陸部に位置する黄河上流の1地域である甘肅省蘭州市の黄土高原は、年間平均降水量 200～700mm(日本の 1/5 弱～ 1/2 弱)であるため、非常に雨が少なく乾燥しており、荒れ山化が進んでいます。このため、社会貢献活動の一貫として今回の活動に参加し、黄土高原の荒れ山の緑化・再生を支援し、黄砂飛来の減少および地球環境保護に貢献すると共に、日中交流と相互理解を深めました。



(写真右が山澤社長)

- 支援活動日 2010年9月20日(月)
- 支援活動場所 中国 甘肅省蘭州市
- 支援活動内容 ベニスナ低木 400本の植樹活動に参加(18名)

※阪急電鉄株式会社と株式会社阪急阪神ホテルズの2社で、寄付を行いました

※今回の寄付金は、次年度の支援活動にて活用される予定

(次年度から、ベニスナ低木を中心に9万本のポット苗を植樹予定)

-「認定NPO法人 黄河の森緑化ネットワーク」の今後の活動予定-

2011年度からの3年間でベニスナ低木を中心に9万本のポット苗で荒れ山35haを普通造林で緑化する予定。また、内モンゴル・オトカ前旗で砂漠の緑化活動も計画している。なおこちらの計画も緑化基金の助成が受けられる事が前提であり、現在、日中緑化交流基金(小淵基金)に申請中。

-「認定NPO法人 黄河の森緑化ネットワーク」の主な活動内容 -

「黄土高原の緑化と日中交流」の理念に基づき、黄河上流の1地域である甘肅省蘭州市の南北両山環境緑化工程指揮部をパートナーに、NPO 法人会費を原資として無償資金協力をを行うとともに毎年秋に植樹ツアー団を派遣している。

- 第1期（2002年度から2006年度）までの5年間で57.26haの荒れ山にヒノキ科のコノテガシワなど約13.2万本を高木の風景林育成を目的に植樹。
- 第2期（2007年度から2009年度）は、ベニスナというギョリュウ科の低木を使った三水造林による水土保持林の育成を目的に、3年間で約100haの荒れ山に約25万本のポット苗で緑化。
- 2010年度は第3期契約を結ばず、単年度契約として第2期同様に、ベニスナ低木を使った三水造林により約20haの荒れ山に約5万本のポット苗で緑化。
- 国内では環境保全活動の一環として、神戸市の六甲山でヤマザクラ、コナラ、クリなどの広葉樹を毎年植樹しており、合わせて植樹地の下草刈りも年2回行っている。こうした活動が認められ、国交省六甲砂防事務所から「森の世話人」の称号をいただいた。

以上